

7 章 フィリピンの沿岸域資源管理と監視体制の充実

—Bantay Dagat への期待と現実—

はじめに

5 章、6 章ではフィリピンの広域沿岸資源管理組織、Banate & Barrotac Viejo Bays Resource Management Council, Inc. (以下、BBBRMCI)の組織と活動、その役割について明らかにした。BBBRMCI は、バラングイの漁業者が参加する Barangay Fisheries & Aquatic Resource Management Councils (以下、BFARMC)との密接な関係を築いてきた。BFARMC はバラングイにあって沿岸域資源の利用と管理に関する問題点を住民間で共有し、必要な対策についての合意形成に重要な役割を果たしている。資源の減少・枯渇は最も深刻な問題だが、違法漁業の横行とそれを取り締まる体制が十分に機能していないことに対する危機感も強い。いわゆる”Law Enforcement”がどこまで徹底されるのか、である。これは、持続的な資源利用のためには不可欠だが、漁村社会において、社会的公正や正義がどの程度達成されているかを示す指標でもある。

BFARMC に対するインタビュー調査の際、漁業者やバラングイ関係者から Bantay Dagat(以下、BD と略す)の活動に関する言及が度々あった。概してその活動が不十分であり、違法操業に対する監視の目が行き届いていないことへの批判であった。その一方、違法漁業は以前に比べて減っているとの見方もあった。実は、違法漁業に対する見方は、漁業者、バラングイ、町によってそれぞれ異なっていた。バナテ湾周辺の漁村で聞き取り調査をするなかで実感したことである。また、BD 関係者に対する聞き取り調査では、彼らが十分な装備もないままに厳しい条件下で、使命感をもって取締活動に参加している状況を理解できた。

本章では、BBBRMCI が関わっている三つの町の BD を取り上げ、その活動がどのように行われているかを述べる。周知のように、フィリピンの沿岸域資源管理に関する論文はきわめて数が多く、紹介されている論点也多岐にわたる。BD に関する言及も当然多い。しかし、地方自治体 (Local Government Unit, LGU) の方針、警察権力の行使、加えて住民のボランティア的な性格があるため、BD はその法律的な位置づけが理解しづらい点がある。そのこともあってか、先行研究の多くは概略的な説明にとどまっており、Rosales (2008)の研究が目立つ程度である。そこで本研究は事例調査を中心にして、第1に、BBBRMCI との協同で監視活動を行ってきた BD の特徴を明らかにし、第2に、バナテ湾とパロタックビエホ湾周辺の海域での違法操業の状況を聞き取り調査にもとづき明らかにする。第3に、Management, Surveillance & Control (以下、MSC)の観点から、調査地の BD の今後の活動の方向性について検討する。

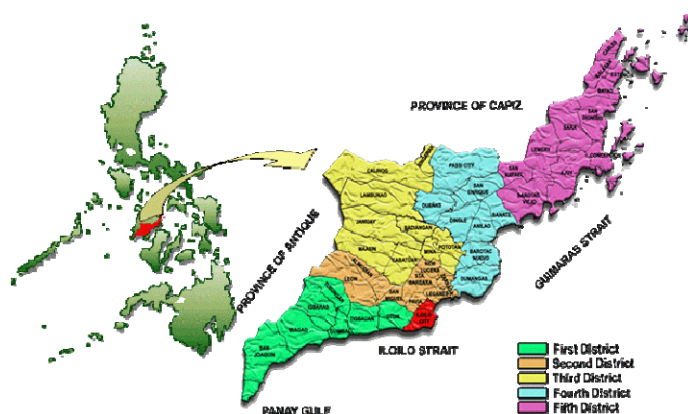
2. イロイロ州の沿岸域資源管理と BD 活動

州政府の役割

イロイロ州には 19 の沿岸市町(Local Government Unit, LGU)があり、州政府は各市町が行う沿岸資源管理活動を支援するために、毎年百万ペソの予算を支出している。ただ、州政府は、関係市町に予算を均等に配分しているのではなく、提出された計画申請書にもとづいて判断している。州内には単独で沿岸域資源管理を実施している LGU の他、BBBRMCI のように複数の LGU が連携して設立した広域管理組織が 3 つある¹。州がこうした広域組織を奨励した経緯はなく、LGU の判断にもとづいて設立・運営されている。

6 章で説明したが、フィリピンの水産資源管理は国レベルと LGU の二段階で行われている。地域で沿岸域資源管理を担うのは LGU、漁業者を始めとする利害関係者、外部の支援機関である。このため、州が権限を行使する業務や範囲は限られる。州で行うのは、LGU が管轄する “Municipal water”に関するデータを集めて提供するほか、LGU 間の利害調整にはあたっている。

図 1 イロイロ州の位置、州内の区分け



州の役割のなかで重要なものは、LGU が作成する沿岸域資源管理に関する条例を審査し、認可することである。州は、必要に応じて LGU に対して条例の修正や変更を求めることができる。また、LGU 間で海域の境界等に関する紛争がある時には、州が当事者間での解決を促し、必要に応じて調整に動くことがある。しかし、法律に州の調整権限に関する定めがないため、解決できなければ裁判所の判断を仰ぐことになる。

現在、イロイロ州が直面している沿岸域管理に関する問題は、沿岸に漂着するゴミの増加、沿岸域環境の破壊、違法漁業 (IUU 漁業) の横行、である。ただ、以前なら違法漁業の問題が最も深刻であったが、現在ではその順位に変化がみられる。が変わっている。7 章において、漂着ゴミの問題を取り上げる BFARMC が増えていることを指摘したが、州政府の認

¹ Southern Alliance, Banate & Barotac Viejo Bays, Norther Alliance がある。広域資源管理組織は IFARMC だが、“Alliance”と総称されるのが一般的である。

識もほぼ同じである。

沿岸域資源管理の活動は、基本的に、LGU 単位に行われる。州は、海洋保護区 (Marine Protected Area, MPA) のフロートの設置、サンゴ礁ガーデン、ダイビング器材の提供、沿岸域資源管理に関する教育訓練のために支援を行っている²。人工漁礁の設置についても BFAR 等と協力しながら各地で実施している。

州レベルの BD 活動

州政府は BFAR の代理として、法の執行や生計向上活動に関する訓練等を実施し、LGU を支援している。沿岸域資源管理に関する監視活動では、本来なら LGU が中心にならなければならないが、19 ある LGU のうち、監視船を所有しているのは数町にすぎない。LGU には十分な海域監視能力が備わっていないために、州は BD を設置している。イロイロ州は BD 職員 21 人を配置しており、そのうち 5 人はフィリピンの国家警察関係者³である。州は 5 隻のパトロール・ボートを配備し、コンセプション、エスタンシア、アニラオに拠点を構えて監視活動を行っている。

州全体の BD の詳細については不明だが、町/市レベルにみられるようなボランティア組織ではなく、専任のスタッフが配置されている。アニラオを拠点とするチームの場合、パトロールをほぼ毎日行っており、1 日当たりの活動は 7~8 時間に及ぶ。1 チームの構成はフィリピン国家警察官 1 人、BD メンバー 5 人である。

後にみるように、LGU が運営主体になる BD の場合、監視船を所有していないケースも多く、その他の必要器材も備えていない。一方、州の BD は表 1 に示したように活動に必要なパトロール・ボートに加えて必要な器材を備えている。詳しい活動状況は不明だが、LGU でカバーしきれない海域を中心に、州がパトロールしている状況である。

² MPA の設置と運営ではアニラオ町が賞をとるなど有名である。コンセプション町にも MPA がある。いずれも州政府から技術支援を受けている。

³ 州は警察関係者の給与は負担していない。

表1 BD のパトロール船と装備状況 (アニラオ町を拠点とするチーム)

	州の所有状況	ユニット数	備考
Motorized boats	○	1 隻	40 フィート、 61 馬力
Phone/Radio	○		
Flshlight	○		
Camera	○		
Video	○		
Telescope	○		
GPS	○		
Marine base Radio	○		
Search light	○		
Firearms	○		
Life jacket	○		
Safety gears	○		
Engine tools	○		
Warning device	○		

(資料)2015 年 12 月聞き取り調査により作成

3 バロタックビエホ町の BD の成果と課題

BD の活動概況

2002 年にバロタックビエホ町が BBBRMC に加盟したのを機に BD の活動が始まった。副町長が BD のリーダーを務めており、LGU の水産行政の中に沿岸域管理が深く組み込まれている。LGU が BBBRMC に参加してからは、監視活動の対象はバロタックビエホ湾、バナテ湾となったが、実際には LGU が管轄する海域に限っている。BBRMC が活発に監視をしていた時期には、BD がその活動に合流することもあった。

副町長以外の BD メンバーは 4 人、いずれもボランティア参加であるが、すでに 15 年近く活動しているメンバーもいる。本業は刺網、はえ縄、敷網等の漁業である。パトロールにはこの 4 人に加えてバランガイ警察の 2 人、それに PNP (フィリピン国家警察) が加わる。

同町の BD は 2014 年の台風ヨランダによって監視船を失った。それ以降、一般漁船をチャーターしなければならないため、海上パトロールは 2 か月に 1 回程度に限られる。PNP、州の監視船がネグロス島からくる違法トロール漁船、それにバナテ町とバロタックビエホ町のダニッシュ・パースセイネを取り締まっている。

表2 BDのパトロール船と装備状況（バロタックビエホ町）

	所有状況	ユニット数	備考
Motorized boats	無		2年前には監視船を所有
Phone/Radio	私用	携帯	
Flash light	私用		
Camera	私用	携帯	携帯のカメラを利用
Video	私用	携帯	携帯のビデオを利用
Telescope	×		BBBが準備
GPS	×		BBBが準備
Marine base Radio	×		
Search light	×		
Firearms	PNP		1人は必ず参加
Life jacket	私用		
Safety gears	×		
Engine tools	○		
Warning device	×		

（資料）聞き取り調査により作成

表2は同町のBDが所有ないしは携行しているものだが、ほとんど器材らしいものは所有していない。州のBDと比べると装備がいかに貧弱であるかがわかる。カメラやビデオは私用の携帯電話の付属品で代用している。

違反操業船を逮捕すると、徴収した罰金の50%がメンバーに支払われる。以前は1週間に3回パトロールしていたこともあり、メンバーの活動収入は多かった。現在は浜から監視活動が中心である。

違法伐採・漁業の状況

バロタックビエホ町ではマングローブの植林活動が盛んである。そのため、違法伐採を厳しく取り締まっている。前浜にあるサンゴ礁も厳しく監視しているため、違法行為は少ない。しかし、漁業操業では違反が多い。トロール、ダニッシュ・パースセイネなどの漁船が沿岸域に入って操業することがある。違法漁業者以外の住民の遵法度は、マングローブ、サンゴ礁、水産資源の利用について高いと、BDは判断している。ただ、養殖池の所有者によるマングローブの違法伐採があり、環境省に取締を要請したことがある。サンゴ礁のMPAを保全するため、BBBRMCIにマーカー設置のための予算を要求している。

2013年から2015年10月までの間の違法操業者の検挙数は185件を数えた。町内のサンジュアン、ヌエバシルビアの二つのバラングアイの違法漁船が多い。BDには監視船はもとより器材も整っていないために、監視活動は困難をきわめている。LGUでは違法操業に対する罰金を高くして、厳しい姿勢で臨んでいるが、違法操業を行う漁船隻数は少なくはない。特にトロール漁船が多いが、これは同町でエビ漁が盛んなためである。漁業者の生計活動を多様化する必要があると、漁具を刺網などに変えるよう勧めている。

4 バナテ町の BD の成果と課題

BD の活動と違法漁船

BD は町長の任命によって選任された 5 人のメンバーによって構成されている⁴。メンバーの活動歴は 2 年~3 年、ボランティア的な活動ではあるが、給料は支給されている。

BD が監視活動を行っているのはバナテ町の海域のみである。BD には定例の会議はないが、監視活動にでる前には打ち合わせがある。BD が日常的に連携しているのは MFARMC と PNP バナテ署である。

監視活動は天候に左右されるが、週に 3 回、月平均では 20 日間に及ぶことがある。時間帯は、午後 4 時から午前 2 時までの 10 時間、6 時から 10 時までの 4 時間の二つのパターンがある。BD は PNP が参加できる時のみ監視活動を行うようにしており、PNP から 1 人ないしは 2 人の警官が合流する。監視する海域はバナテ町の管轄範囲だが、隣町との境界域での監視を重視している。

違法操業を行う漁船、ダニッシュ・パースセイネ、トロールなどは、バナテ町の沖合からバロタックビエホ湾に侵入してくる。バリン 8 隻くらいが、沖合 8-9km でバナテ湾を横切ってアニラオに抜けていく形で操業している。トロール漁船 100 隻近くあり、エビ、カニ、ロコス、イカなどを漁獲している。バナテ町のダニッシュ・パースセイネ 10 隻が操業をしている。バナテ湾、バロタックビエホ湾沖は違法操業が横行している海域である。

BD の装備状況はバロタックビエホ町のそれと大差ないが、全長 36 フィートの監視船を所有している。私用の携帯電話をカメラ・ビデオとして利用しているが、それ以外の器材は装備していない。違法漁船に対して警告するメガフォン、マイクなどは備えていない。現在必要なものは、携帯ではないデジタル・カメラである。違法トロール漁船が網を切って逃走するため、監視船のプロペラに巻きつくことがあるため、網を切るナイフも必要とのことである。

BD のメンバーは LGU の契約職員になる。操船担当者には月額 6000 ペソ、その他は 4500 ペソの支給があり、これに BD としての給料 2000 ペソが加算される。違法漁業者より罰金の徴収があった際には、LGU が 60% をとり、BD に 40% が分配される。

⁴ BD のメンバーは現町長と血縁関係にあるか、近しい関係にある。

表 3 BD のパトロール船と装備状況 (バナテ町)

	所有状況	ユニット数	備考
Motorized boats	○	1	船長 36feet、船幅 2 feet。1.5 年使用、13 ノット
Phone/Radio	× 私用	6	
Flash light	× 私用	1	
Camera	× 私用		携帯
Video	×		
Telescope	×		
GPS	×		
Marine base Radio	×		
Search light	PNP		small light, short & long
Firearms	PNP		
Life jacket	×		
Safety gears	×		
Engine tools	私用、PNP		
Warning device	×		

(資料)聞き取り調査により作成

資源利用の状況

住民によるマングローブの違法伐採はほとんどなく、積極的に植林をしている。サンゴ礁の MPA があるが、ダイナマイトを使用する違法操業者はいない。違法行為を行う零細漁業者あまりいない。したがって、住民や漁業者の遵法精神はかなり高い。だが、商業的な漁船漁業(‘commercial fisheries’として区分)では違法操業が多く、地元内外の違法漁船が操業を続けている。

バナテ町では年間 50 件の違法操業を検挙している。違法操業が多いのはトロール、かつてはダニッシュ・パースセイネが多かったが、台風ヨランダによって被災し漁船隻数が減少した。違法操業船は相変わらず多いが、BD には十分な資器材が備わっていないために、取締は難しい状況にある。逮捕した際には漁業法等の内容をよく説明するが、違法操業を繰り返す者が多い。

マングローブ及びサンゴ礁に対する違法行為があると、BD はまずバランガイ・キャプティンに通報し、その後に警察と BBBRMCI に報告する。漁業操業については警察に報告し、検挙した場合は罰金 2500 ペソを徴収する。この場合も、BD はバランガイ・キャプティンに報告している。

BD 運営の成果と限界

BD のメンバーが活動に参加した動機は、バナテ町の漁業を違法漁業者から守り、零細漁業者の生計を安定させたいということであった。バナテ町の場合、他の地域の BD とは違って LGU の契約職員としての身分が保障されており、ある程度の収入が得られる。BD は公務員型組織であり、その活動は安定している⁵。

⁵ BD のメンバーは現町長の縁故関係者が含まれている。他地域の BD のように、ほぼ無

以前、BBBRMCI がパトロール船を所有して監視活動を盛んに行っていた折には、バナテ町の BD との協力関係が強かった。現在は BD だけによる監視活動である。また、バナテ町には多数の違法漁船がいる漁村集落があるが、そこでの直接の取締活動はほとんど行われていない。バナテ町外の海域で操業する限りは問題にしない、ということだが、沿岸域での操業は少なくない。

PNP の監視活動への参加

バナテ町はもとより、BD の海域監視活動には PNP 警察官が同行するのが一般的である。もちろん、同行していなくても監視活動はできるが、その場合には検挙はしない。バナテ町では、PNP が同行できない場合には、海域監視活動を行わないことにしている。監視活動のプランを決めるのは PNP である。PNP によると、監視活動は 1 回につき 4～6 時間程度、沿岸から 15 キロ沖以内、横幅 8 キロくらいバナテ町の海域が対象になる。PNP の 2 人が同行し、BD の 4 人とあわせて計 6 人で監視活動を行う。LGU は BD のメンバーに対して給料を支払うが、PNP のメンバーに対しては警察が支払う。

監視活動に必要な燃料や食料などの経費は、基本的には BD が準備している。違法操業者を逮捕した際には、PNP を通じて州に報告し、罰金が確定したら、違法操業者は LGU にしはらう、或いは裁判所に送致される。小型トロールだと 2500 ペソの罰金である。なお、獲物は没収の対象にはならない。この 2500 ペソは BD の収入となり、一種のインセンティブになっている⁶。

BD と関係機関との連携は、資源管理を担う MFARMC との関係はとても強いが、BBBRMCI との関係は薄くなっている。海事警察、BFAR などとの関係はない。

BD がもっている器材は限られていたが、PNP はフラッシュ・ライト、サーチライト、ピストル (48 口径) を装備している⁷。PNP としては、違反船を取り締まるには 120 馬力のエンジンを備えた監視船が必要だと判断している⁸。

PNP から BD に参加している警察官によれば、ネグロス島から来る 200 隻近くのトロール漁船、同じくネグロス島やマナ手町からのダニッシュ・パースセイネ、ダイナマイト漁な、違法操業は多い。検挙するのは 2 トン程度の小規模トロールが多く、年間 100 件近くある。そのうち罰金支払いは 5～6 件、裁判は 2 件であった。2014 年には 32 件の検挙があった。検挙が難しいのは漁船の装備が充実してきているのに対して、監視船の能力や装備が劣るためである。違法操業は特定のバランガイに集中していることから、バランガイ・キャプティンを通じて説得・教育するなどしているが、生計手段が漁業だけの場合は、違法操業をしやすくなる。

PNP は町の管轄範囲内で活動し、BFAR はリージョン(Region)を範囲とする監視、州はその管轄範囲を対象にしている。

5 アニラオ町の BD と MPA 管理

BD の概要と活動状況

アニラオ町の BD の設立は 1996 年と早く、BBBRMCI が設立される以前から活動を始めていた。同町が BBRMCI に参加していた時期には、BD はバナテ湾全体を管轄

報酬に近い状態でボランティアとして参加しているとは言えない。

⁶ 州の BD では、LGU が 60%、BD が 40%である。

⁷ ライフ・ジャケットを所持していなかった。

⁸他の地域で違反操業する漁船が監視船に故意に衝突するケースがある。

していたが⁹、現在はアニラオ町の海域のみを対象にしている。

アニラオ町の BD の組織と活動はかなり特徴ある。パトロール、モニタリング、生計活動などを総合的に行っている。現リーダーは、BBBRMCI の職員として管理活動に長年にわたって従事した経験を有しており、JICA プロジェクト等が実施した訓練活動にも積極的に加わっていた¹⁰。参加メンバーは彼を入れて 5 人である。リーダーは 1 月あたり 15 日～30 日間、合計で 6 か月間、LGU に雇用されている。給料は日給制で当初は 140 ペソ、現在は 200 ペソである。だが、他のメンバーはボランティアであり、BD が行う監視活動で得る罰金収入、それに BD が手がけるダイビングの訓練、貝類養殖、各種調査の補助活動によって得られた収入が、メンバーの実質的な給料になっている。

アニラオ町には沿岸域のバランガイが 7 つあり、それぞれに BD のような活動を行う監視員が配置されている。

BD のメンバーの在職期間は平均 8 年とバナテ町と比べると長い。活動はほぼ毎日あり、ブリーフィング等の打ち合わせを常時もっている。

監視活動を続ける上で、特に強い関係があるのが LGU と PNP である。BBBRMCI とは正式な関係がなくなっているが、人的なつながりはまだ残っている。一方、沿岸警備隊等の関係は強くはなく、データ収集のために出向いて来るだけである。アニラオ町には第 6 州の商業的漁船等の取締を行う BFAR のパトロール・ボート 6 隻が係留されている。これらのボートは、アニラオ町における違法操業を直接に取り締まるわけではないが、間接的ながら抑止効果はあると言われる。

監視活動について

監視船が動かせる限り、ほぼ毎日パトロールしている。浅瀬があるために干潮の際にはボートが出せないため、1 回のパトロールは 6 時間と限られる。BD のメンバー 3-4 人が乗船するのみで、バナテ町やバロタックビエホ町のように PNP 警察官は同行していない。これはスケジュール通りの運航にはなっていないためである。違法漁船を逮捕した際には、監視船の係留地点で PNP が待って逮捕している。一般的には、PNP が同行しなければ BD は単なる監視活動行う解釈されているが、アニラオ町では逮捕できると考えている。武器の携帯と発砲も可能との立場をとっている。だが実際には、BD メンバーが違法漁船の乗組員に対して発砲して負傷させたために、裁判に訴えられた。BD の活動は監視船が違法漁船に囲まれたり、ぶつけられたりリスクが高い活動である。アニラオ町では、MPA 周辺の監視活動に重点を置いている。

BD の装備状況

他の町の BD と同じように、装備は貧弱でほとんど何もない状態であった。監視船は小型でエンジンの馬力数も小さい。調査時点では、監視船が台風で被災していたため、漁船をチャーターしていた。

⁹ なお、違法漁業者を逮捕した際には、該当する海域を管轄する町の警察に引き渡した。

¹⁰ リーダーは 2007 年に BBRMCI、州、BFAR などが主催した逮捕に関する訓練活動に参加した。

表 4 BD のパトロール船と装備状況（バナテ町）

	所有状況	ユニット数	備考
Motorized boats	○		20feets 7.25HP。3 人乗り内燃だが、エンジンは未装備。台風で被災。
Phone/Radio	○	携帯電話	Radio は壊れた
Flash light	×		
Camera	○ LGU		防水機能あり
Video	×		
Telescope	×		
GPS	×		所有していたが、壊れた
Marine base Radio	×		
Search light	×		
Firearms	×		
Life jacket	×		
Safety gears	×		
Engine tools	×		
Warning device	×		

アニラオ町の BD のユニークさは、監視活動のほかに生計活動を行っていることである。リーダーのダイビング技術を活かして収入を得て、それを補助するメンバーに分配している。また、LGU は BD にマーカの修理などの仕事を与えている。BD は集魚施設（アロン）を設置するとともに、貝類養殖なども行っている。この BD では、リーダーの働きがきわめて重要な役割を果たしている。

資源管理及び違反の状況

マングローブ、サンゴ礁、魚類資源の状況はきわめてよい状態にある。以前はマングローブの違法伐採があったが、現在はなくなった。サンゴ礁周辺ではダイナマイト漁をする漁業者がいるため、MPA 及びサンゴ礁周辺の取締活動を行っている。また、ブラウン・マッセルを対象にした違法採取が多い。ダニッシュ・パースセイネはバナテ町、パロタックビエホ町からくるが、その数は減っている。トロールは主にパロタックビエホ町、ネグロス島からくる。

逮捕件数は 2011 年は 12 件、2013 年には 18 件、2014 年には 32 件にまで増えた。ダニッシュ・パースセイネがサンゴ礁の MPA に侵入するケースが多い。また、違反件数が増える要因としては、登録（ライセンス）をしていない漁業者が多いためである。違反すれば 2500 ペソの罰金が課せられる。現時点では、漁業者全体の 15%が登録しているだけなので、バランガイ・キャプティン、BFARMC などを通じて説得している。

マングローブの違法伐採があった時には、バランガイ・キャプティンに報告、警察に通報するが、さらに環境省(DNER)に報告することもある。サンゴ礁及び魚類資源に対する違法行為は逮捕されるが、裁判になるケースもある。逮捕者が初犯であれば、違法操業を止めるよう指導するが、違反 3 回目になると逮捕する。

BD の監視船以上に、違法漁船の性能と装備がよくなっているため、逃走する船が増えている。逮捕時に監視船に体当たりする違反漁船もいる。したがって、BD の資器材及び資金の不足、訓練の不足が法執行を妨げている。アニラオ町の BD が違反漁船を発見しても逮捕できない時には、州の BD の監視船に依頼する¹¹。また、BFAR の監視船の拠点アニラオにあるために、違反操業に対する取り締まりは比較的しやすい状況にある。

BD への参加と今後の活動

アニラオ町の海域は狭いが、前浜には 32ha の海藻の MPA、4ha のサンゴ礁の MPA が設置されている。後者の周辺にはアロングと呼ばれる集魚施設とパヤオが設置されている。また、ウミガメを保全するプロジェクトもある。活発に沿岸域資源管理を行う町として知られている。

BD のメンバーが監視活動に参加する動機は、水産資源を保全したいという意志とともに、漁業法を執行するという強い責任感からである。BD メンバーの間には、MPA の設置と管理によって水産資源が増えて水揚げが増加することへの期待感がある。一方で、BD に参加することによる収入増加については、それほど強い動機にはなっていない。

違反操業に伴う罰金支払いは、LGU が 60%、BD が 40%の割合で分配される。1 月に 1 回くらいの頻度で罰金の支払いがある。違反者の中には、罰金を支払わずに収監される漁業者が少なくない。

以前、4 つの町が BBBRMCI に参加していた時期には、監視活動をほとんど毎日行っていた。また、JICA のプロジェクト活動が実施されていた期間は、他の町と共同して監視活動を行っていた。アニラオ町が BBBRMCI から 2013 年に脱退した後は、モニタリングが多くなっている。各種プロジェクトと違法漁業に対する監視が中心であり、必ずしも逮捕を目的としたパトロールではない。

なお、アニラオ町は直接に管理する海域が極端に狭く、隣接する町との海域確定が明確ではない。そのため、MPA 設置等に伴う周辺漁業者との軋轢が生じやすく、BD の活動との緊張関係が生じやすい。

6 参加型の沿岸域資源管理体制と BD

6 章で明らかにしたように、市町を拠点にした沿岸域資源管理体制は、その計画から執行体制にいたる過程の責任を LGU と利害関係者、広くは地域住民が負うことになっている。漁業法、地方自治法等にもとづく監視活動を担うのは、沿岸警備隊、BFAR、州、市町、それに MFARMC が合法的な資源管理組織として法執行を備えられた。バナテ湾、パロタックビエホ湾沿いの 3 町では、BBBRMCI が活発に活動していた時には、各町の BD の機能を代表する形で監視活動が行われていた。BBBRMI は沿岸警備隊、PNP との協力関係があり、実質的に逮捕権限を行使していた。だが、各町の BD にはその機能はなかった。BBBRMCI の組織と活動が衰退すると、各町の BD はそれぞれの地域の PNP と協力して監視と検挙に務めた。今回の調査ではその実態を詳しく明らかにすることができた。

参加型の沿岸域資源管理ではあるが、違法漁業が横行しており、それを取り締まれない状況にある。BFARMC 関係者の間では、違法漁業を減らすことの難しさが強調され、

¹¹州バンタイ・ダガットの船はコンセプションを拠点にしているが、アニラオ町、ドマンガス町までを範囲にしている。

警察権限の発揮を伴う法執行をしっかりすべきであるとの意見が多かった。調査対象地域では、参加型の資源管理は、3 町が参加して運営していた BBBRMCI のもとで成り立っていた。その秩序は、漁業者や資源利用者の倫理観や自己規制によって維持されているわけではない。PNP との連携によって警察権限を発揮できる BD、その他の行政機関の様々な活動があって資源管理ができるのである。

ボランティア的な組織である BD の役割が強調されるが、監視活動に必要な船がなく、わずかの器材すらも備えていない現実がある。本来なら、沿岸域の監視活動は PNP や沿岸警備隊、BFAR、州などが担当すべきであろうが、その体制が整わないために地域のボランティア組織に頼っている。BD は制度としては中途半端であることは否めず、これがフィリピンの沿岸域資源管理の実態である。

違法漁業を半ば放置している監視活動は、零細漁民にすれば、一種の社会悪とみなされる。しかし、持続的に資源利用を行うという目標を掲げて、厳しく監視活動を行い、違法操業を取り締まると、商業的漁業者を中心に反発が高まってしまう。時に地域社会に治安上の不安定さをもたらす。政治的な緊張関係が生じ、どのように資源管理をするか、しばしば町長選や町議選の争点にもなる。すでに述べた、BBBRMCI からバロットク・ヌエボ町、アニラオ町が脱退した背景には、それぞれの町内、及び 4 町間にあった政治的対立が指摘されている。

沿岸域資源管理の一翼を担う BD は、漁村社会の微妙なバランスなかで存在しながら活動を続けている、と言える。

参考文献：

Rina Maria P. Rosales 2008. Incentives for Bantay Dagat Teams in Verde Island Passage, Conservation International Philippines